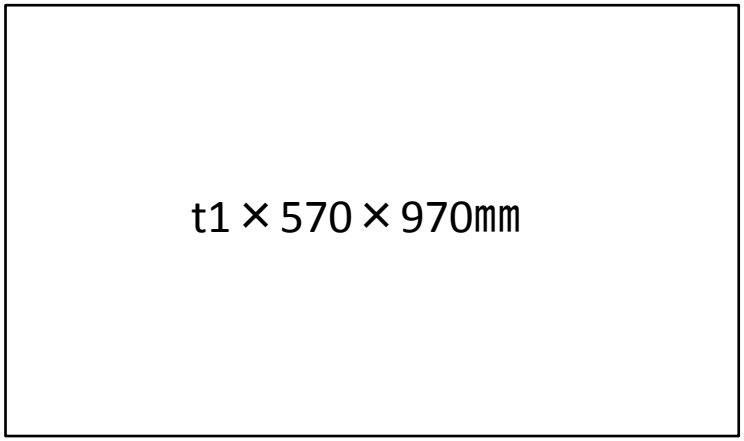
【 プ ロ ロ ボ コ ー ト 図 面 】

コート製作する上での注意点

材料　PPシート（t1×570×970㎜）



≪コートの下地≫
PPシートを活用ください。
他の材料を使うとパフォーマンス性が悪くなります。

≪壁に使う素材≫
PPシート
2×4材
発泡ブロック
プロロボの箱　　など
※赤外線センサーを使う際には白い壁が必要となります。

≪壁を固定する際≫
PPシートの場合は総合カタログに掲載されている両面シールなど
2×4材などは重いので置くだけで大丈夫です。
発砲ブロックは、滑らないシール（ホームセンターなどで購入できます）
プロロボの箱（箱の中に何か重りを入れてください）

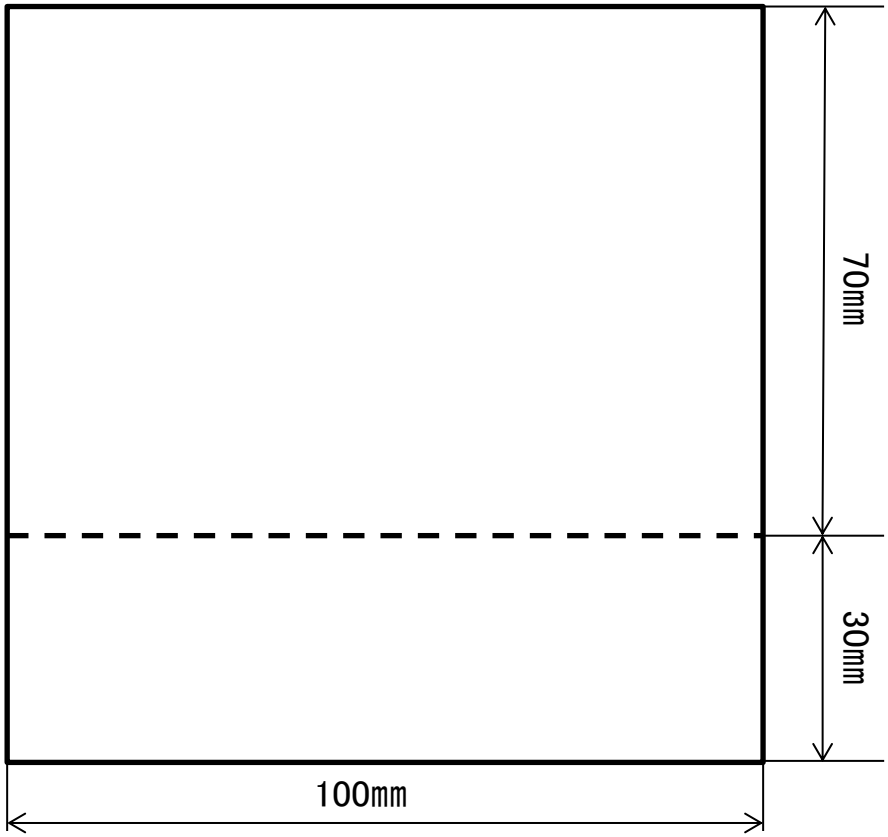
※すべらないシールや重たいものを置く形式をとると、自由にコートが製作できます。

≪その他注意点≫

絶縁テープのようなビニールテープを使用すると、プロロボが引っかかる場合がありますので、総合カタログに掲載されている製本テープを使ってラインなどを引いてください。

【 プ ロ ロ ボ コ ー ト 図 面 】 PPシートで壁を作る図面

壁標準図面

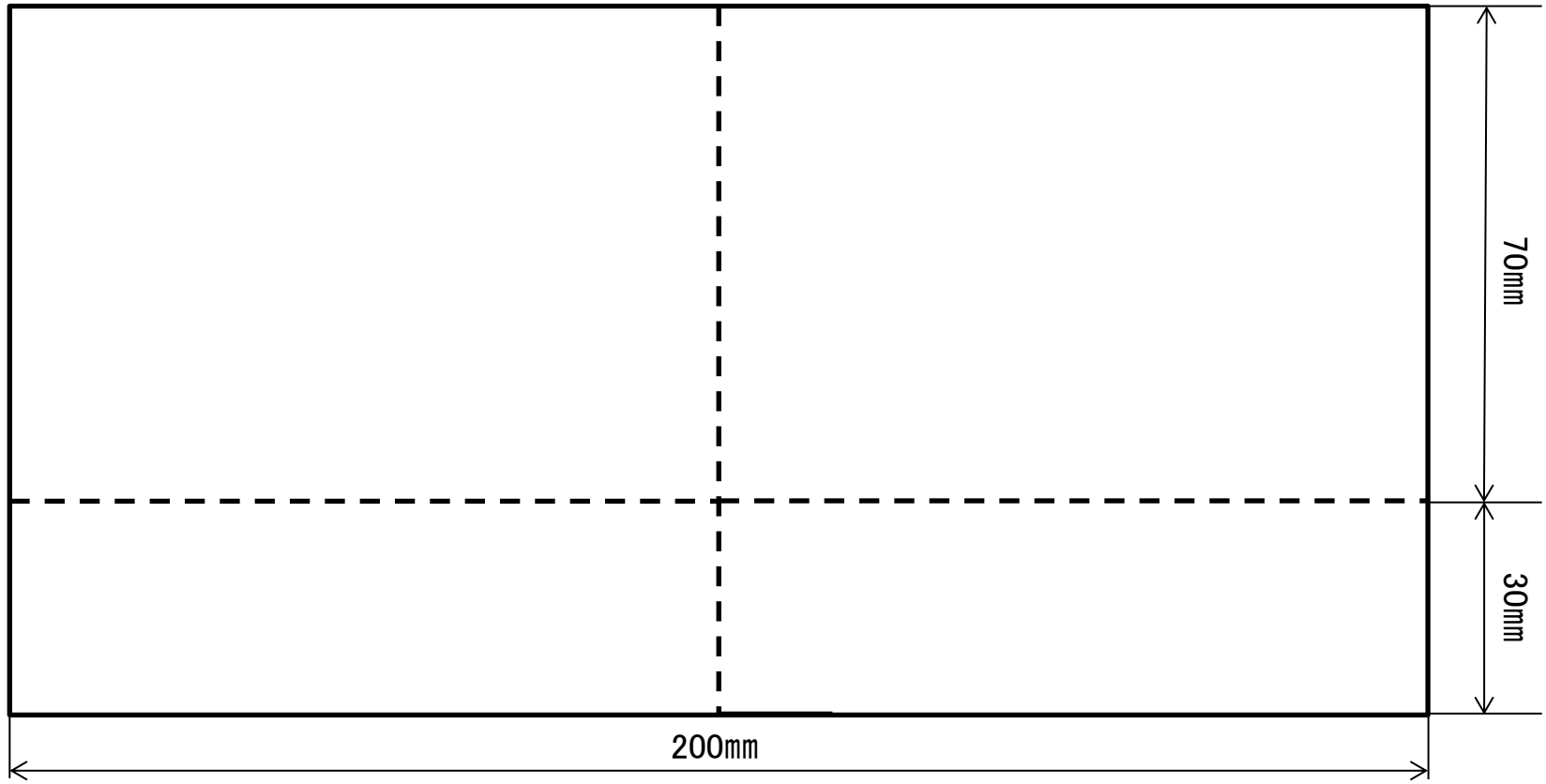


100×100㎜に切断し、30mmの破線ところで切り込み
（カッター）を入れてください。そこが折り曲げるところに
なります。
30㎜の幅のところに両面テープで下地に固定してください。

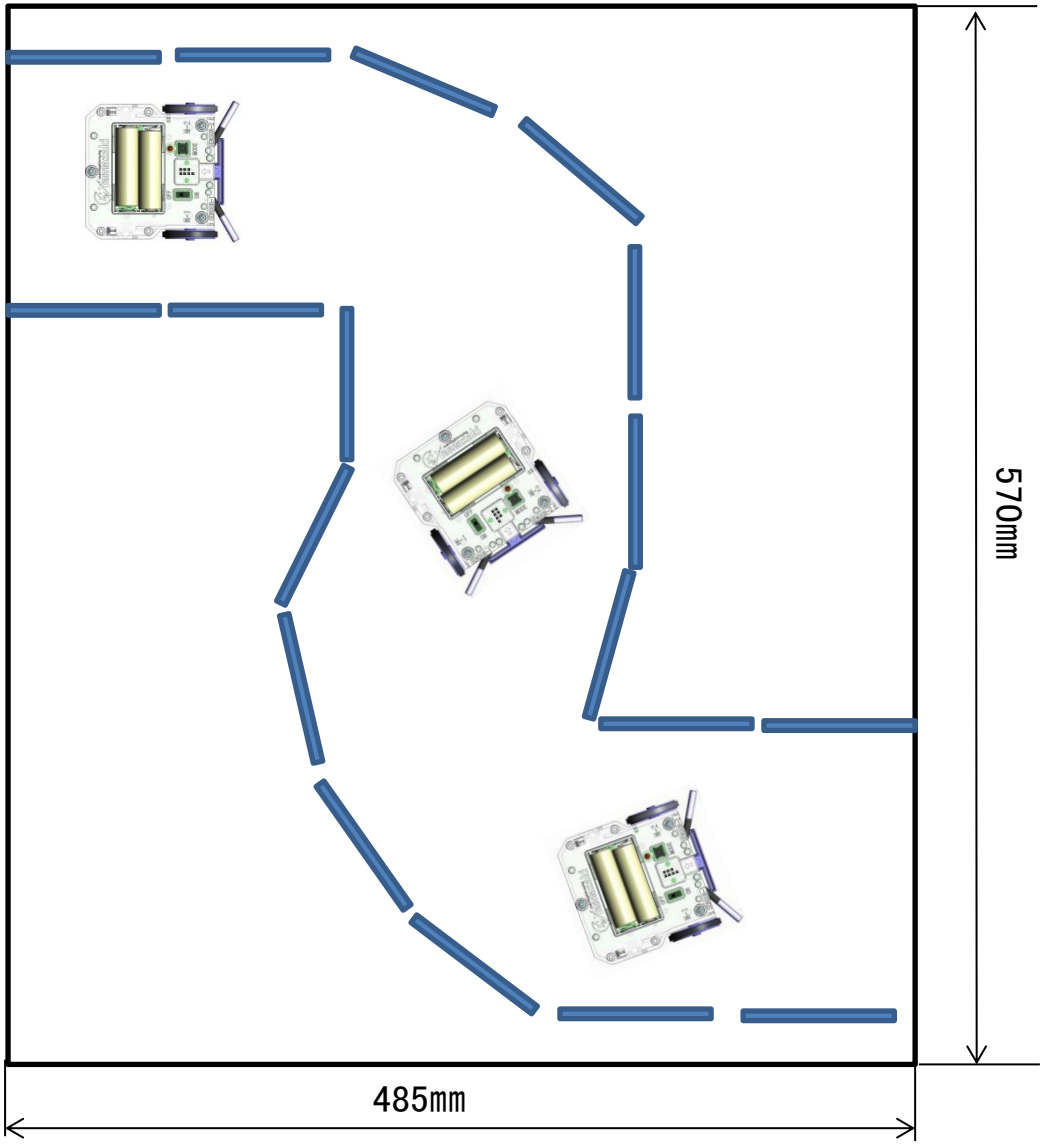
壁の高さが70㎜以下だと赤外線が反応しにくくなります。
壁の高さは70㎜以上にしてください。

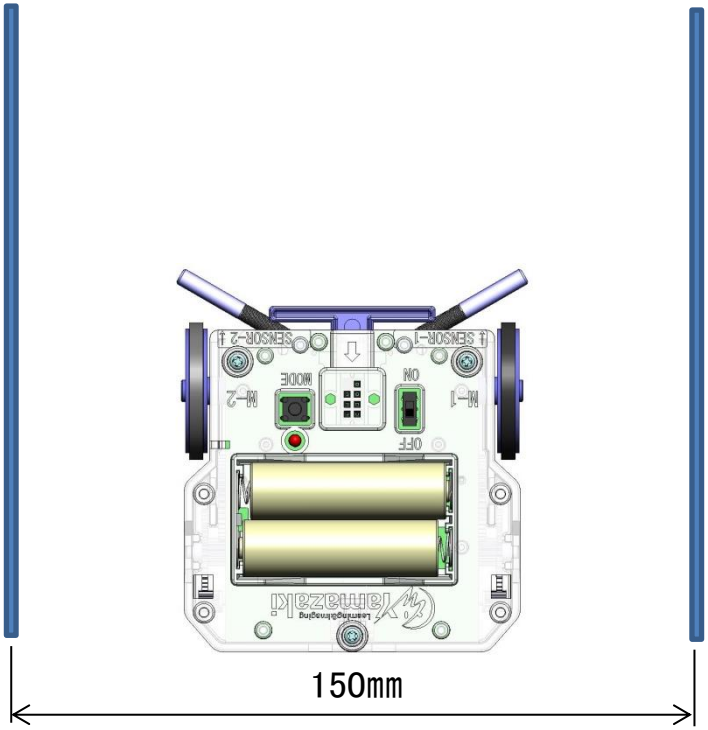
【 プ ロ ロ ボ コ ー ト 図 面 】 PPシートで壁を作る図面

壁ロング図面



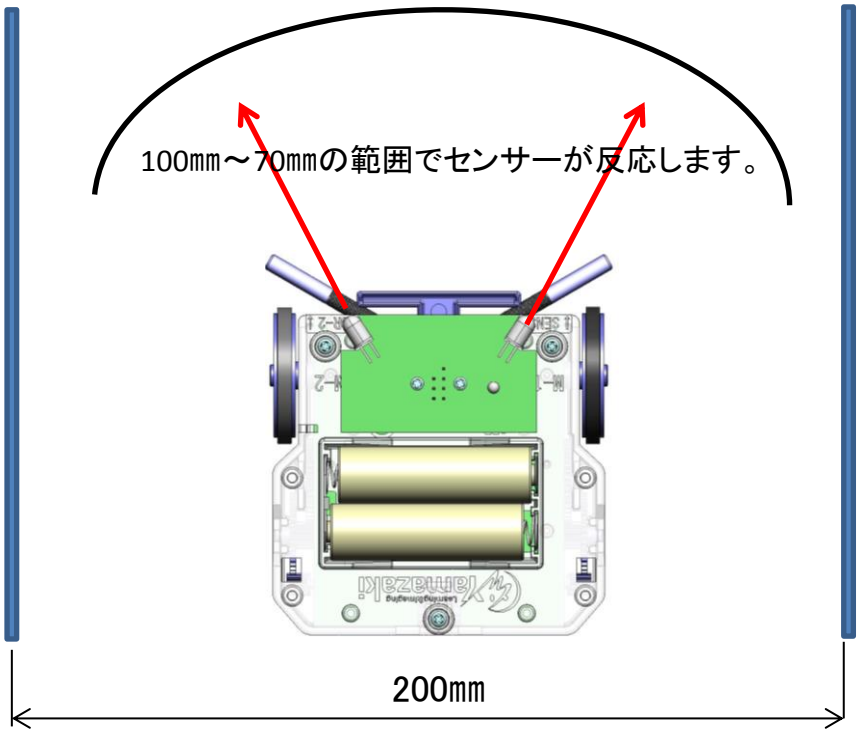
【 プ ロ ロ ボ コ ー ト 図 面　接触センサー（センサー1・2の場合） 】





壁を設置する場合位置は現物合わせになってしまいがちですが、接触センサーを使う場合は壁と壁の間は150㎜程度開けて頂くと良いです。

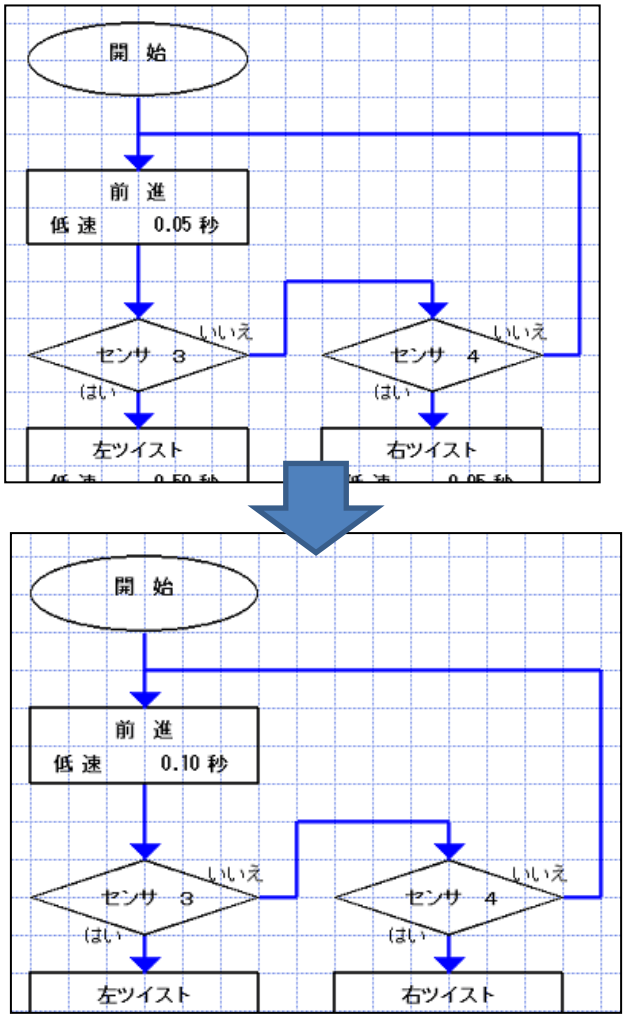
【 プ ロ ロ ボ コ ー ト 図 面　赤外線センサー（センサー3･4の場合） 】



赤外線センサーの場合壁と壁の間を200㎜程度開けて下さい。

また左のフローチャートのようにセンサーの反応をあえて鈍くする必要があります。

壁には白の壁を使うと赤外線が反応します。
黒を使うと赤外線が反応しません。



上段のプログラムは前進を「0.05秒」の為、小刻みに反応しますが、壁と壁の間が狭いと立ち往生します。そこであえて前進を「0.1秒」のように少し反応を遅くするようにするとうまく前進するようになります。